

# 松江市立天文台～3月の天文教室～

平成27年 3月25日

## 3月下旬午後8時頃の星空～



南からは桜の開花が聞こえ、草むらにはツクシも見られるようになって、いよいよ春本番です。暖くなった夕暮れの西の空には、「宵の明星」になった金星が輝いています。今の時期は、西の空には冬の星座、東の空には春の星座が見られ、ふたつの季節の星々を分けるように木星が空高く輝いています。

3月下旬午後8時頃の星空です。

月、木星、金星の位置は3月25日現在のものです。

各天体の見かけの大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

## 今夜の月

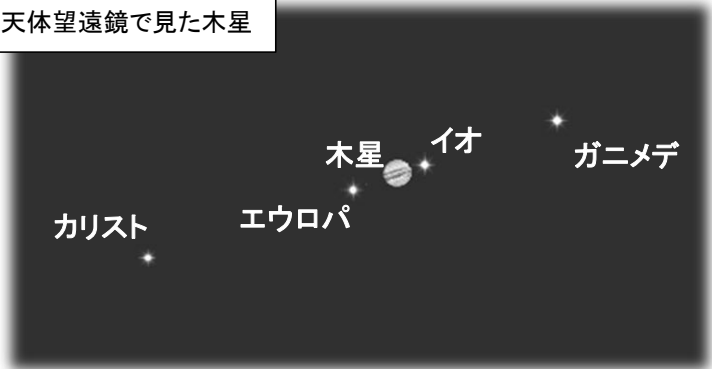


今夜の月は月齢5、三日月よりちよっぴり太くなって、おうし座の中に見えています。  
小型の望遠鏡や双眼鏡で表面のクレーターが観察できます。

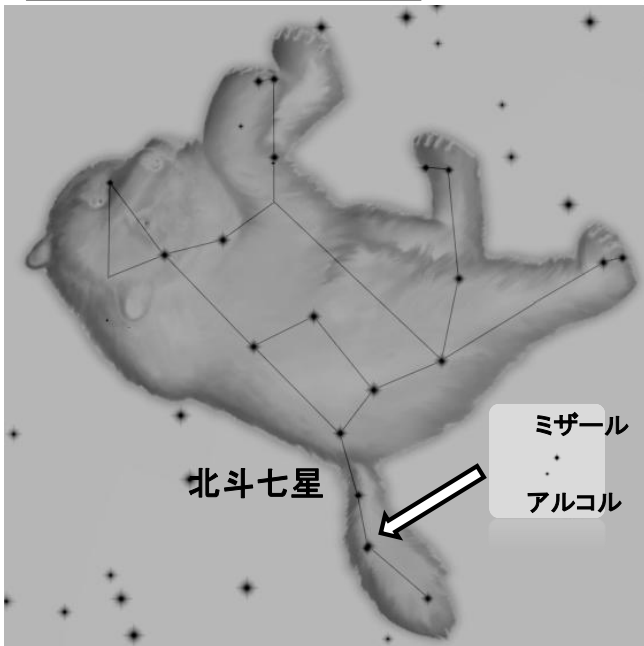
## 木星

木星は、太陽系最大の惑星です。  
小型の天体望遠鏡でも表面のしま模様や、4大衛星(ガリレオ衛星)の位置を観察できます。  
イラストは今夜の木星と4大衛星の位置です。

小型天体望遠鏡で見た木星



## おおぐま座



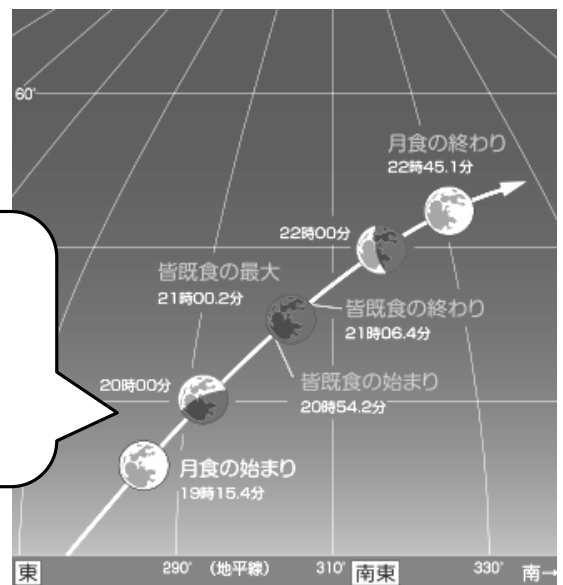
北斗七星の名称は良く知られていますが、星座では「おおぐま座」の一部です。  
実際は北斗七星以外の星が暗く目立たないので、星空を見てクマの姿を想像するのは難しいでしょう。

北斗七星の柄の端から2番目の星は、ミザールという固有名を持つ2等星ですが、よく見るとすぐ近くに4等星が見つかります。  
この星にもアルコルという固有名が付いています。  
さらに天体望遠鏡で観察すると、ミザールのすぐ近くにも一つ星を見つけることができます。

### 4月4日は皆既月食

午後9時前から約12分間、皆既月食で赤銅色の月を観察することができます。肉眼でも充分楽しめますが、小型の双眼鏡があるとなお良いでしょう。次回は3年後の2018年1月31日まで見られません。

資料のデータは天文年鑑、アストロアーツから引用しています。  
使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。  
また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。



## 次回の天文教室

開催日 4月22日(水) 20時から21時まで  
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)  
事前の予約は不要です。



Matsue Astronomy Club  
MAC 松江星の会